

ISDAKポイントカードプロジェクト

—顔が見える留学生と地域との交流—

ISDAK Point Card Project:

Face to Face Communication between International Students and

Local Residents

小平国際学生宿舎寮生・地域交流実行委員会 事務局 菊池 哲矢

KIKUCHI Tetsuya

(Committee for Promotion of Community Friendship, ISDAK)

キーワード：多文化共生、世界への窓口、地域活性化、多文化共生社会

4年目の現状

ISDAKポイントカードプロジェクトは、東京都小平市の一橋大学小平キャンパスに位置する小平国際学生宿舎(International Student Dormitory of Kodaira)の寮生と地域との交流を目的にした事業で、最寄駅の西武多摩湖線・一橋学園駅周辺の8商店会、小平商工会、宿舎関係者及び小平市国際交流協会の4者が2012年9月に実行委員会を立ち上げてスタートした。

プロジェクトの内容は、年間を通じた加盟店でのポイントサービスと年3回の商品券抽選会、年2回の商店街ツアー及び餅つき交流大会である。ポイントサービスは加盟店で寮生が買い物をするたびにスタンプ1個、スタンプが3つたまると景品と引き換え、引き換えられたカードで夏2回、冬1回商品券の抽選会を行うものである。抽選会は商店会の夏まつりと餅つき交流大会で実施している。

商店街ツアーは3月と9月の入寮に合わせ、6月と11月に小平市国際交流協会のボランティアと寮のレジデ



2013年7月 スタンプカード抽選会

ント・アシスタント(RA)がペアで新しい寮生に商店街を案内することで、町に馴染んでもらうというものである。2013年度から寮生側委員の提案を受けて、「食べ歩き・飲み歩きツアー」をサブタイトルに加え、試食・試飲をしながら街歩きをしている。試食は豆腐や団子、せんべいなどで、また、試飲にはコーヒーや市内で収穫されたブルーベリーを使ったブルーベリーワインを提供してもらっており、いずれも留学生に非常に好評である。

また、6月のツアーは商店街を回った後、学園西町地域センターでボランティア手作りのちらし寿司を賞味しながら歓迎交流会を行う。11月のツアーでは小平市産業まつりにあわせて実施し、商店街を回った後、歓迎式を行い、その後、産業まつりに合流し、市内の物産品を楽しんでもらっている。

餅つき交流大会は、従来、ISDAK寮生の主催により国際学生宿舎内で実施してきたもので、小平市国際交流協会と小平青年会議所が協力して実施し、市民との交流を行う場として機能していたが、2015年1月から実行委員会が事業を引き継いで実施している。



スタンプカード



2014年10月 歓迎交流会



2013年 歓迎交流会
「ワタシハ、サイタマケン カラ キマシタ」



2014年6月 せんべいやさん



2014年6月 焼き鳥やさん
ビールまで飲ませてもらいました

2015年6月末現在で、これまでの参加者数は次のとおりである。

(1) イベント

期日	内容	留学生	日本人学生	来賓・地域住民	ボランティア	計	加盟店	試食・試飲協力店
2012年 10月6日(土)	商店街ツアー	6カ国 24名	1名	8名	14名	47名	46店	—
2013年 4月13日(土)	春季商店街 ツアー	8カ国 28名	5名	6名	15名	54名	44店	—
2013年 11月9日(土)	秋季商店街 ツアー	11カ国 41名	10名	5名	8名	64名	44店	7店
2014年 6月7日(土)	春季商店街 ツアー	11カ国 20名	7名	8名	8名	43名	42店	9店
2014年 11月8日(土)	秋季商店街 ツアー	12カ国 41名	5名	5名	10名	61名	44店	6店
2015年 1月17日(土)	餅つき大会	15カ国 41名	9名	46名	22名	118名	—	—
2015年 6月13日(土)	春季商店街 ツアー	7カ国 19名	4名	15名	12名	50名	44店	10店

(2) 抽選会

期日	抽選会場	関連イベント	当選者数
2013年1月24日(金)	事務局	—	1等1名、2等1名、3等1名、 4等1名、5等9名
2013年7月6日(土) 17:30~18:00	一橋学園駅前公園	学園坂商店会 サンバカーニバル	1等1名、2等1名、3等2名
2013年8月2日(金) 20:00~20:30	一橋学園南口ロータリー	一橋学園南口商店会	1等1名、2等2名、3等6名
2014年1月11日(土) 11:00~14:00	一橋大学小平キャンパス	留学生と市民の餅つき交流パーティ	1等2名、2等2名、3等17名 特別賞TDLペアチケット1名
2014年7月5日(土) 17:30~18:00	一橋学園駅前公園	学園坂商店会 サンバカーニバル	1等1名、2等1名、3等7名
2014年8月2日(土) 20:00~20:30	一橋学園南口ロータリー	一橋学園南口商店会	1等1名、2等1名、3等7名
2015年1月17日(土) 15:00~15:30	学園西町地域センター	餅つき大会	1等1名、2等2名、3等10名

※賞品は3,000円から500円までのクオカード



2014年11月 団子やさん



2013年4月 画材店の蚤の市

事業の発端

小平国際学生宿舎は700室ほどあり、一橋大学の日本人学生のほか一橋大学、東京農工大学、東京学芸大学、電気通信大学の4大学の留学生在が住んでいる。世界各国からの留学生在が400人以上住んでいる施設であり、毎年3月末と9月末に留学生在の入れ替わりがある。小平市の外国人人口は約4,000人で全住民の2.2%を占めているが、ISDAKがある学園西町の外国人住民は600人を超えており、全住民数の7%を占めている。

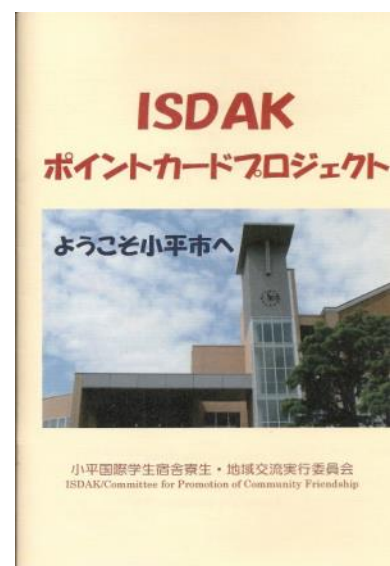
また、小平市には一橋大学小平キャンパスを含め大学が5校あるほか、隣接して東京学芸大学があり、通学・居住している留学生在は数多い。従来、留学生在との地域交流については、小平市国際交流協会でホームビジット事業などさまざまな事業を展開してきたが、特徴的なものに、1991年から実施してきた「国際こどもクラブ」がある。小学校3年生から6年生を対象にした10回連続講座で、前半の50分をネイティブ講師による英会話ゲーム、後半60分を世界各国の外国人に毎回、その国の遊びや文化を紹介してもらった異文化理解講座で、毎年実施している人気事業である。この異文化理解講座の講師に留学生在が多数手をあげてくれている。

小平国際学生宿舎は協会の施設がある学園西町地域センターの直近に位置していることから、毎年3月と9月の入寮オリエンテーションで上記にあげたような協会の事業をPRさせてもらっていた。その際、大学の担当の先生から来日したばかりの留学生在にボランティアが病院や生活用品を売るお店を案内してもらえるとありがたいという話があった。

協会の評議員会議長が小平市商工会の役員をされていたので、相談したところ学生が利用する西武多摩湖線一橋学園駅周辺の商店会に呼びかけていただき、8つの商店会の会長・副会長、小平商工会、協会及び寮の関係者の4者で実行委員会を設けツアーを実施することになった。2年目から留学生在を含むRAにも実行委員に加わってもらい、学生目線での事業を心がけている。

単に商店街を案内するだけでなく、地元商店の利用促進という観点から加盟店を募り、スタンプカード事業を付加した。加盟店や病院のマップを作成したが、最初のマップの原稿は中国出身の留学生在が作成し、現在、バングラデシュ出身の留学生在に引き継がれている。

事業財源は、商店会及び協会の事業負担金と補助金が主なもので、補助金は初年度が小平市商店街地域活性化補助金を、2年目からは(独)日本学生支援機構が所管する中島財団助成金をいただいている。このほか国際交流フェスティバルのなかでボランティアが留学生在支援バザーを実施し、その売り上げを寄付してくれており、食べ歩き・飲み歩きの貴重な財源となっている。



最新のマップ

課題と展望

実行委員会規約では、「小平国際学生宿舎に入寮する学生と地域の結びつきを深めることによって、多文化共生社会の推進を図ることを目的とする」とうたっており、将来を担う世界各国からの留学生と地域との結びつきを深めることにより、留学生に対しては地域への理解を深めてもらい、他方、地域住民には多文化共生社会の実現に寄与してもらおうことを狙いとしている。そして、寮がある学園西町1丁目は外国人住民の割合が20%を超えていることから、商店街活性化の視点から地元商店の購買層として位置付け、利用促進を図る狙いもあった。

しかし、学生は日常的にコンビニやスーパーマーケットを利用しており、加盟店である個人商店はなかなか利用しづらいという実態がある。当初、加盟してくれた商店でも購買促進を期待していたが、駅から少し離れた商店では利用実態がないのが現状である。それでも、「しょうがねえなー」と言いながらも忙しいなか、ツアーで店内の案内や試食・試飲で協力してもらっており、店主と留学生が笑顔で交流する場が確保できている。

留学生は、アンケートを読むと、来日したばかりの時期にボランティアが街を案内してくれたことがとてもうれしかったという感謝や、個人商店に入って展示されている自転車をみたり、豆腐屋さんの店内に入ったり、貴重な経験ができたことを喜んでいるものが多い。

小平市はブルーベリー栽培の発祥地であるが、昨年6月のツアーで試飲したブルーベリーワインの原料となるブルーベリーの朝摘みを酒屋さんがよびかけたところ、早朝6時の集合にもかかわらず、6名の留学生がボランティアとして参加してくれた。

なお、当初はISDAKの寮生を対象にスタートしたが、アパート居住の留学生から「私たちは高い家賃を払って住んでいるのに参加できない。」という抗議を受けて、留学生であれば誰でも参加できるようにした。その結果、他の大学の留学生もツアーに参加してくれている。

ツアーの後の歓迎交流会もしくは歓迎式では、小平市長、小平市議会議長、小平商工会長に来賓として留学生に歓迎のあいさつをしてもらっている。また、2014年度から町会にも歓迎交流会や餅つき大会に参加してもらっており、餅つき大会では留学生に餅つきの手ほどきをもらっている。商店



2014年11月 豆腐屋さん



2013年4月 自転車店で

会だけでなく、町会が事業に参加することで地域交流がさらに広がることを期待している。

東京オリンピックの招致活動で「おもてなし」がキーワードになったが、まさにこの事業は留学生に対する「おもてなし」であり、帰国後の日本での学生生活における「小平市」の印象となってもらえればいいのではないかと感じている。



2014年11月 歓迎式 記念撮影